

令和5年度 園評価書

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている、C:あまりできていない、D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策(来年度の具体的な取組目標等)
心豊かで たくましい子	やってみよう 考えよう 伝えあおう	身近な人と挨拶を交わす	保育教諭が園内、園外でも積極的に挨拶をし、子どもと様々な場面で挨拶の大切さを知らせていたことで、挨拶が大切なことはわかっているが、身近な人と挨拶を交わすことに個人差がある。引き続き積極的に挨拶を行っていることで、高部地区の暮らしのめあて「時・場・礼」に取り組み挨拶の大切さを伝え、挨拶をする姿に繋いでいきたい。	B	B	・挨拶の仕方にも個人差があるが、子どもが自ら挨拶をすることが大事と思えるような年齢に合った関わりが出来ることと良い、年長の最後の姿として目指していければと思う	・保育教諭が引き続き積極的に挨拶を行っていただくことで挨拶することの心地よさを実感し、高部地区の暮らしのめあてである「時・場・礼」に取り組むことで子どもが挨拶する姿に繋げていく
		子どもが自ら考えたり試したりしながら遊ぶ	各クラスで発達に合った遊びの拠点作りをしていく中で、子ども一人一人の関心をもって遊ぶ姿を保育教諭が見取り、タイヤやコンパネなどの可動用具を活用しながら遊ぶきっかけを与えるような環境設定をしていくことで考えたり、試したりする姿が見られるようになった。	A	A	・子ども達が園庭のそれぞれのコーナーで楽しく遊んでいた。園庭が狭く感じるほどの遊びのレパートリーがあると、子どもも毎日違うことが出来て楽しいのだと感じた子ども同士が上手く遊ぶ方法を考えられるのではないかと園庭、配慮、環境設定の努力が見られる	・子ども達の心の動きを捉え、ありのままの思いを共感的に受け止めていく。そこから子ども思いに沿った遊びを一緒に考え、試したり伝え合ったりしながら遊びが広がるよう工夫していく
		自分の思いを相手に伝えながら遊びを楽しむ	継続して一人一人の思いや要求を受け止めるようにしたことで、「伝えたい」という思いが膨らんでいる。幼児クラスは振り返りで自分の思いを伝え、話し合いながら遊びを進めていく楽しさを感じられるようにしたことで友達と思いを伝え合いながら遊んでいる。乳児クラスも安心して自分の思いを出しながら遊んでいる。	A	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策(来年度の具体的な取組目標等)	
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	遊びや生活を通して異年齢で関わる中で年上児に憧れたり、年下児に優しく関わったりする気持ちを育てる	自然物の使い方を年上児が年下児に教えたり、運動会や発表会を見て年上児に憧れをもつ姿が見られた。中間報告時時点が年下児と交流が生まれてくることがあったと感じたが、園庭の遊びが個々の安心、安定となり(異年齢)に向けての関心や憧れの広がりがあった。保育教諭が行事や散歩で行く等、異年齢で関わる機会を設けることで正月遊びを異年齢で関わって遊び、教え合う姿が自然と見られるようになり育ちとなった。	A	A	・異年齢同士の関わりは、保育教諭同士の関係から生まれてくると思う	・引き続き様々な遊びや活動を通して異年齢で関わる機会をもちそれぞれの年齢の育ちに繋げていく	
		(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	子ども一人一人の成長や保育時間を考慮することで安心して過ごせるようにする	早番の職員と担任との連携を確実にし、子どもの様子や健康状態を把握することで一人一人が安心して過ごせている。遊びのマンネリ化が気になっていたので職員間で子どもの姿について話し合いを行い、子どもの姿に合わせて玩具の入れ替えをすることでクラスでの遊びの続きが楽しめ、更に安心して遊ぶ姿が見られるようになった。	A	B	・子どもにとっては、しっかりと寝ていない子、朝食を食べたくないなどの子も見られるのではないかとと思う。生活リズムを乳児のうちから整えられると良い。家庭との連携や生活リズムの個人差への対応はどうか隙間の無い連続性が大事だと思う。特に乳児クラスの生活に着目していく	・それぞれの家庭で生活習慣が違うことを保育教諭が理解し園で出来ることを考慮し対応を考えていく
		(3)環境を通して行う教育及び保育	身近な自然や素材に触れる環境を作る	中間報告後、身近な自然や素材について再度考え、園内にある樹木の葉や花を使ったり、散歩に出掛け自然物を集めたりして遊ばせようという考えが出来た。保護者に協力してもらい廃材を集め、身近な素材を使って遊ぶ環境を整えたり、山原山や水車小屋へ散歩に行き地域の生き物や季節の移り変わりを感ずることが出来た	A	A		・園内外にある自然物について保育教諭が知識をもち、遊び環境に活かしていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	自分の身を自分で守る行動がとれるようにする	中間報告時には子ども達がいざと言うときの対応について考えられるようになっていたが、まだ行動には結び付いていなかったため、遊んでいる時や散歩中、午睡などの場面で想定した訓練を継続して行い状況に合った避難の仕方を知らせた。毎月ヒヤリハットや事故報告の検証をし害虫の情報なども子ども達の安全に必要な情報も知らせることで個々への身の守り方や避難の仕方が身に付いている。	A	A		・子ども達がいざという時の行動に結びつくような様々な想定での訓練を計画し、実施していく。また職員一人一人が危険に対する意識をもち対応できるようにしていく	
		(1)健康教育の充実	食べることに興味関心を持ち、楽しく食べるようにする	自分達で野菜を育てて生長を観察したり、収穫した野菜を調理して食べることで食への興味関心をもてるようにしている。調理前の食材を回覧して見ることで形や香りに興味をもつ子も見られている。また、夏野菜や秋のさつまいも、正月のおせち等、季節に沿った食材で食育の話をすることで食への関心が広がり、友達と楽しく給食を食べる姿が見られている	A	A		・引き続き年間計画で栽培やクッキングを計画したり、月ごとのテーマを決めて食への活動を取り組み、食への興味をもたせ、楽しく食べる工夫をしていく。テーマは今年度の反省をもとに検討していく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	支援が必要な子への関わり方や発達を知りその子に合った活動を提供したり支援したりする	ぼんだ会議でコーディネーター研修や特別支援基礎研修の報告をしたり、一人一人の特徴を理解して一緒に支援の方法を考えたりしていたことで支援が必要な子が無理せず安心して過ごすことが出来、運動会や発表会も自信をもって参加出来た。今年度は、ぼんだの会、ぼんだ会議に担当以外が参加し活動内容、サポートの共有を行うことができた	A	B	・特別支援に関しては、保育教諭が頑張ったから出来るようになるのではなく、仲間との関わり、子ども達の触れ合いの中で育ててほしいと思う。子どもも持っている力を仲間の中で育てることが出来たら良いのではないかとと思う	・引き続きぼんだの会を行い、小集団から大きい集団へと友達の中で育つことを意識した活動を支援に合わせ取り入れていく	
		(1)組織体制の充実	職員が自分の分掌に責任持ち、取り組んでいる	園活動が計画的に実施できた。分掌間で話し合った内容を会議で他職員に投げかけたり、ボードに貼り出ししながら全職員で共通理解できた。分掌内で役割分担をし、職員一人一人がより責任をもち取り組めるよう意識したが、分掌によってはリーダーが一人で進めていくことがあり偏りが出た。来年度は分掌内で話し合いを充実させ、各分掌の職員が意識して取り組めるようにしていきたい。	B	B	・職員のみならずという姿勢が子ども達の「楽しそう」につながっていくので、職員それぞれの良さを活かして意見の共有をしながら進めていくと欲しい。指示されるのではなく自らやるのが良いと思う	・それぞれの分掌で話し合いを充実させ、リーダーが一人で活動を進めていくなどの偏りが出ないよう各分掌の職員が意識をもって取り組めるようにしていく。
6 研修	(1)研修体制の充実	各年齢ごと園内研修を行い、研修テーマに沿った手立てについて検証している	公開保育では、同じ時間帯に参観した職員や職種別にグループ分けを工夫することで活発に意見交換が行えるようになってきている。各園内研修で出た学びを次の学年の公開保育に繋げていくことや公開保育実施後の子どもの遊びや環境を発信していくことに課題が残る	B	B		・公開保育に全職員が参加できるような時間調整やグループ分け等を行い、意見交換が皆で出来るようにしていく。各園内研修で出た学びや次の公開保育に繋げていくことや公開保育後の子ども達の遊びや環境を発信していく	
		(1)教育・保育環境の充実	子どもの姿を伝えあい、子どもが考えたり試したり出来るような環境を整える	毎日の打ち合わせを活用し、各学年の遊びの姿を細かく伝えることで遊びのコーナー分けをしたり、保育の改善の為に職員間で話し合い園庭や室内の環境を変えていくことが出来た。虹会では園庭環境の見直し、築山の階段、滑り台の作成を行い改善することが出来た。	A	A		・子どもがやってみようと思えるよう、自分達で選んだり考えたりして遊ぶことの出来る環境(素材・用具・場所)を用意していく。可動用具の工夫や園内にある教材や地域の自然を活用していくために虹会を定期的に行い、話し合いや実践を行っていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	子どもの様子を職員が言葉で伝え、保護者と育ちを共有して子育てを楽しむ	ボードやドキュメンテーションの掲示をしながらもその子の様子を保育教諭が言葉で伝えている。参加時、面談や懇談会を行ったり、送迎時に保育教諭が直接話をすることで子どもの成長を喜び合ったり困っていることなどを共有しサポートしていくことが出来た	A	A	・保護者の支援に関しては、保育教諭の努力がうかがえた。少しでも今日できたことがあると保護者は嬉しいので保育教諭が出来るだけ送迎時の場面に保護者に伝えられると良いと思う	・ドキュメンテーションやクラスボードの掲示は継続して行い、園での活動や子どもの様子を伝えていく。直接のやり取りをすることで子どもの成長を共有し保護者の協力にも必要に応じて相談に乗りながら子育てを支えていく	
		(1)近隣の園との連携の推進	職員同士が情報を共有したり、小学校に行く機会をもったりして交流を深める	10月に年長児が小学校の運動会見学を行い小学校への憧れや期待をもつきっかけとなった。12月に高部東小学校とアプローチャリキュラムを基に意見交換を行い幼保小の接続がスムーズに行えるよう共有していくことが出来た。12、1月に就学先の小学校の先生が公開保育を参観したり、子どもの様子について話し合いを行い、連携しながら子どもの育ちを支えた。	A	A		・子ども達が小学校へと出かける機会を定期的にもち、園児と児童、先生との交流を多くして小学校が身近に感じられるようにしていく。また、公開保育や授業参観、園小一貫協議会での参加など職員同士の情報共有してアプローチャリキュラムを用いての情報交換を行っていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域の行事に参加するなど地域の方との交流が持てる機会を作っていく	10月よりS型ディサービス訪問をはじめ、月2回全学年が順に訪問し、地域のお年寄りとの触れ合いを楽しんでいる。乳児クラスは自然物を拾いに散歩に行く興味に動労感謝のプレゼントを届けたり、不審者訓練の際に立ち寄り協力してもらった。年長児は近隣園との交流を新たに飯田北こども園とも行った。近隣のガソリンスタンドからタイヤを頂き可動用具として子どもの遊びに取り入れていくことが出来た。	A	A		・地域の方の中での活動を取り入れたら、情報の共有を行い計画的に行事に参加したりするなど地域との交流の機会を増やしていく	